

令和 6 年度

経営発達支援事業 評価・見直し結果報告書（令和 5 年度分）

1. 評価機関名 当麻町商工会 第 1 回総務委員会
2. 開催日時 令和 6 年 7 月 5 日（金）13 時 00 分～
3. 開催場所 ふれあい交流センター輝き 2 階研修室
4. 出席者
 - （1）外部有識者 当麻町監査委員 深谷 俊文
当麻町まちづくり推進課 課長 川本 充宏
 - （2）商工会 総務委員長 長谷川 浩保
総務委員 中西 紀人、原 尚司、長瀬 司朗
事務局長 早坂 一則 経営指導員 種村 勇人
補助員 伊達 千尋

5. 内 容

定刻となり、事務局が開会を宣し、長谷川総務委員長が開会挨拶を行った後、議事に入る。

（1）経営発達支援計画及び伴走型小規模事業者支援推進事業について

事務局は令和 3 年 3 月 26 日に認定を受けた経営発達支援計画（3 期目）及び認定計画において交付を受けて実施した、伴走型小規模事業者支援推進事業の概要説明を行い、以下の説明をしました。

（2）令和 5 年度事業報告について

事務局は毎年度、認定計画の実施状況を国へ報告すること及び経営発達支援事業の評価・見直しを行う仕組みとして、本委員会により PDCA を機能させていくことを説明しました。

令和 5 年度における、経営発達支援事業の実施状況を「経営発達支援事業評価シート」【令和 5 年度版】により報告を行いました。

I. 経営発達支援事業の内容

①地域経済動向の調査に関すること

事業計画策定の際に地域経済分析システム（RESAS）を活用し、経済動向の分析や地域内の景気動向調査を行い、小規模事業者が必要とする情報を提供することによりブラッシュアップすることが出来ました。

②経営状況の分析に関すること

MA-1 システムを利用している 20 事業者に対して、システム内の分析グラフを活用して経営分析を実施し、他の 24 事業所に対して法人企業は決算書を基に、個人企業に対して決算指導時に決算書を基に実施しました。

③事業計画策定支援に関すること

10月・11月に2回の生成AIやITを活用したセミナーを開催し、延べ10名（参加事業所数7社）の参加があり、セミナー参加者のうち4社は商工会の支援、他の3社は専門家による事業計画策定に繋げることが出来ました。

また、専門家と連携し、小規模事業者の経営課題に応じた事業計画策定支援を実施し、販路開拓や補助事業の活用に繋げることが出来ました。

④事業計画策定後の支援に関すること

事業計画を策定した事業者5社に対して、専門家と連携しながらフォローアップを行いました。またフリーペーパー活用やYouTube活用による販路開拓事業者や展示会・商談会出展事業者に対してフォローアップを行いました。

⑤需要動向調査に関すること

「ライナー旭川」（地域フリーペーパー）に掲載した15事業所に対して、9月の期間中の需要動向調査をヒアリングにより実施した。

また東京ギフトショーにおいて需要動向調査を実施し、首都圏における調査結果を事業者にフィードバックしたことにより、商品のブラッシュアップに繋げることができました。

⑥新たな需要の開拓に資する支援に関すること

9月に旭川駅内で行われた「駅マルシェ 2023」に出展した、農産物小売事業所・コーヒー豆卸売事業所2社に対し、出展前→出展中→出展後までの支援をおこないました。

首都圏アンテナショップでは農産物製造業者・飲食業者・農産物卸売業者、東京ギフトショーでは鉄鋼業者・銘木業者・農産物卸売業者に対して出展支援を行いました。

コロナ禍により、売上が落ち込んでいる飲食業等のサービス業を選定し、「ライナー旭川」（地域フリーペーパー）を活用し、販路開拓支援事業を行いました。

チラシ等の紙媒体の広告より効果的な販路拡大に意欲的な5社に対し、当麻町商工会YouTubeチャンネルを立上げ、それぞれのお店の個性を活かしたPR動画を制作し、販路開拓支援を行いました。

II. 地域経済の活性化に資する取組

イベント（とうま蟠龍まつり）は、30回記念として規模を拡大して実施したが、当日の雨により人出は少なかったものの、地域の交流人口に一定の効果はありました。

1月に当麻経済懇談会を開催し、域内経済循環サイクルのDX化へ向けて懇談することができました。

特産品の販売として、9月に旭川駅内で行われた「駅マルシェ 2023」に出展しました。

Ⅲ. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

①他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

金融機関との連携及び情報交換は、日本政策金融公庫、北洋銀行及び旭川信金と情報交換を行ったことを報告しました。

近隣商工会との連携及び情報交換は、石北四町市場協議会の経営支援会議を4回開催、支援ノウハウの情報交換を行ったことを報告しました。

専門家との連携及び情報交換は、石北四町市場協議会と北海道商工会道北支所の共催による共同講習会において専門家による支援力向上研修会に参加し、支援ノウハウや情報交換を行ったことを報告しました。

②経営指導員等の資質向上等に関すること

経営指導員と記帳専任職員が北海道商工会連合会や中小企業大学校が開催する支援員向けの研修に参加、補助員・記専が全道ブロック別補助員等研修会に参加したことを報告しました。

職員会議は毎週金曜日の朝に行っていること、内容については情報の共有を行っていることを報告しました。

③事業の評価及び見直しをするためのしくみに関すること

前年度は本日開催の評価委員会を令和5年5月30日に1回開催していることを報告しました。

(3) 令和6年度事業計画及び予算について

事務局は別添資料に基づいて、令和6年度伴走型小規模事業者支援推進事業計画及び予算について説明をした。なお、事務局は事業実施が例年より1月程早くなること、事業計画及び予算は申請済みであり、採択を受けていることを合わせて説明しました。

(4) 事業の評価・見直し結果の内容について

評価内容について、川本委員より下記のとおり見直しの意見がありました。

川本委員：「Ⅱ. 地域経済の活性化に資する取組」の「当麻町の情報発信強化」について、ひるとうま・よるとうまのパンフレット更新に限定されているのか？

例えば当麻町のホームページにお店の紹介をしているので、そう

いったものもカウントしては如何なものか？

事務局：ひるとうま・よるとうま限定の内容ではないことを説明し、町ホームページによる情報発信の１回とライナー広告及び YouTube による情報発信１回ずつとし、実績値を「０回」から「３回」に見直し、自己評価を「Ｄ」から「Ａ」に見直すことで、委員会にて承認を得ました。

総務委員長：「Ⅱ．地域経済の活性化に資する取組」の「地域資源を活用した特産品開発」の特産品開発はまだ進めて行くのか？

事務局：経営発達支援計画を作成時には特産品開発委員会が存続しており、そのままの推移している旨の説明をしました。「今後の対応等」の文面を修正し、「特産品開発へ向けて」から「特産品開発の支援へ向けて」に修正することで、委員会にて承認を得ました。

その他、委員長は意見を求めたが意見はなく、評価委員会を閉会した。
時に１３時４２分であった。